



編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

## 基本理念

私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開してまいります。

独立行政法人  
国立病院機構高知病院

## 開院10周年を迎えて

国立病院・国立療養所の統廃合計画に基づいて、国立高知病院と国立療養所東高知病院が統合し新しい国立高知病院として開院して、本年10月に10周年を迎え、10月2日に新阪急ホテルにおいて高知病院開院10周年記念式典を開催致しました。旧高知病院は明治31年3月高知陸軍衛戍病院として創設され、一方、東高知病院は昭和21年に日本医療団により発足され、両病院とも非常に長い歴史を持つ病院といえます。旧高知病院は、一般医療を中心にした急性期医療を、一方、東高知病院は結核、重症心身障害患者などの慢性期医療を担当しそれぞれの分野で高知の医療に貢献してきました。このように、対象疾患が異なるためお互いの病院の方針、目標とするところは一致しないのは当然であり、新しい高知病院は、まさに、異なったタイプの病院の統合で、ある意味実験的な要素も含んでいたかもしれません。この2つの病院の統合には実際多くの問題が生じたこともありますが、何とかうまくソフトランディングできたように思います。これには、表面には現れていませんが、旧高知病院、東高知病院はじめ、関係の方々の多大な努力があったものと思っております。新病院に集まった職員が、それぞれの職員が自分の所属していた病院のカラーを守りつつも協力しあい新しい高知病院としてのカラーに変えてきたように思います。その意味からも私たちの病院は慢性期型と急



NHO高知病院 院長  
大串 文隆

性期型の病院統合に成功した例ではないでしょうか。さらに中国四国を一単位とした人事交流が行われ、四国のみならず、中国地方の出身者も勤務するようになり、それぞれ職員の経験が集積され、そのことは病院の活性化に大きな役割を果たしたと思います。開院してからの10年を振り返ってみますと、組織が国立から独立行政法人に変更し、建物も含めた過去負債の返済義務が生じ、経営基盤の確立が強く求められるようになり、病院職員一丸となって、病院の改善に努めてきました。このことが結果的には、地域における病院の評価を少しずつ上げてきたように思います。病院は開院して10年を迎えましたが、もちろん、これは通過点に過ぎません。私達は先人達が築いてきた過去の実績を引き継ぐとともに、それを大きく発展させなければなりません。そのためにも10周年の記念日は、次の10年に向かっての新しいスタートの日でもあります。病院目標である地域に信頼される病院になるためには、立ち止まることは許されません。病院を継続的に活性化していく必要があります。そのために、職員すべてが病院をよくするにはどうすればいいかということを常に念頭におき、知恵を出し合っていくことが重要です。これからの10年は、今まで以上に厳しいことが想定されますが、職員が団結して高知病院をすばらしい病院に進化させていきたいと思っております。



# 開院10周年記念行事



管理課長 久保田克也

当院は平成12年10月1日に、旧国立高知病院と旧国立療養所東高知病院が統合し新病院として発足後、今年で開院10周年を迎えたことから、平成22年10月2日(土)に高知県、高知市、徳島大学、高知大学等これまでご支援・ご指導いただいた関係機関の皆様、また、今日の当院の礎を築いてこられた先輩方々と現職員が一堂に相集い、開院10周年記念式典、記念講演、祝賀会を高知新阪急ホテルにて開催しました。

午後4時からの記念式典は、多数の職員等が出席する中、厳かに執り行われ、院長式辞の後、国立病院機構理事長の式辞、来賓の方々の御祝辞を頂き、職員一同この10年を振り返ると共に、あらためて地域の皆様の期待に応える高度な医療が提供できるよう、心に誓ったところです。



その後、記念写真撮影の後、午後5時から国立病院機構本部梅田医療部長による、「高知病院10周年記念に寄せて」という

テーマで記念講演が行われ、現状の国立病院機構が果たしている役割や運営方針、また、平成21年度に行った新型インフルエンザに対する初期対応等、様々な取り組みが紹介されました。

待ちに待った祝賀会が午後6時から、中国四国ブロック事務所佐藤統括部長のご発声により始まりました。祝賀会には、新病院開院以降関わった諸先輩方に声かけをしたところ、休日にもかかわらず32名の方々が遠方から駆けつけて下さり、現職員と昔話やそれぞれの近況など楽しそうに歓談され、2時間という時間があっという間に過ぎ去りました。また、谷名誉院長、森下名誉院長からも、当時の苦労話や今後の当院への期待等の言葉をいただき、職員にとっては、感慨深いものとなりました。

今回、区切りの華やかな式典等を行いました。今後も職員一人一人が自ら行動し、これから10年後、20年後と当院が更に発展して、今回以上に意味深い記念式典等にしていきたいと思っております。



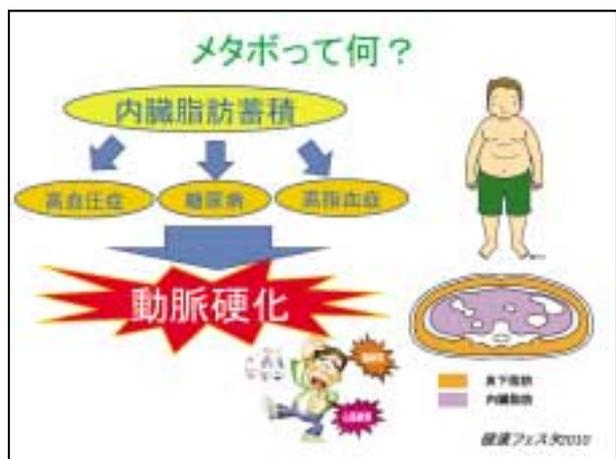
## 第3回 市民公開講座

## 知らないと危険なメタボ



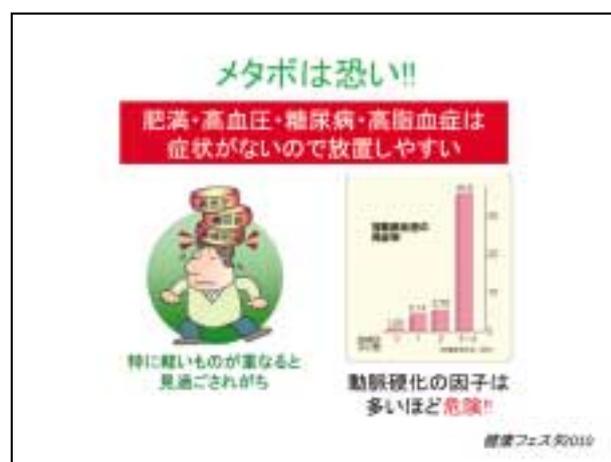
循環器科医師 名田 晃

2008年度より厚生労働省がメタボリック・シンドローム（以下メタボ）の予防と改善を目的とした新しい健診制度を打ち出し保険組合にメタボ対策を義務付けました。メタボというと単なる肥満を想像される人も多いと思いますがそうではありません。メタボとは内臓周囲に脂肪がたまることにより高血圧、糖代謝異常（糖尿病）、脂質代謝異常（高中性脂肪血症、低HDL血症）など、動脈硬化を引き起こす危険因子が1個人に複数あらわれる病態を示しています。



なぜメタボが危険なのか、いくつか理由があります。1つは、肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症は無症状であるため、健診で異常を指摘されても放置される人が多いのです。風邪や腹痛など症状を有する病気であれば、軽症であっても病院を受診される人は多いのですが、メタボは症状がないため放置したり、薬物治療を勧められても抵抗感を示される人も少なくありません。しかし、これらの動脈硬化危険因子を放置することにより知らず知らずのうちに動脈硬化が進行していくのもメタボの怖いところです。動脈硬化が進行した先にあるのは狭心症、心筋梗塞、

脳卒中といった死に直結しやすい病気であり、発病してから治療をはじめても、血管はもとの健康な状態には戻りません。また動脈硬化危険因子を多く有する人は、10年後の虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）の危険度が、健康な人に比べて36倍も高くなることが報告されています。



メタボと言われたらどうすればよいのか。まずはメタボの原因である内臓周囲にたまった脂肪を減らしましょう。そのためには適度な運動と食事療法が必要です。脂肪を燃焼させる運動としては有酸素運動であるウォーキングが適しています。日本人の健康維持に最適な運動消費カロリーは1日あたり約300kcalとされており、1日1万歩で消費されます。食事については、野菜を多く、脂っこいもの、甘いもの、カロリーが高いものを控え、バランスのよい食事と腹八分目を心がけましょう。メタボで治療の必要な人は、かかりつけの医師に相談し薬物治療を継続することが大切です。

みなさんの健康を守るためのメタボ健診ですので定期的に受けることをお勧めします。

自分の健康は自分で守りましょう。

## 医療安全管理室

「第8回日本医療マネジメント学会  
高知県支部学術大会」に参加して

感染管理認定看護師 原 昭恵

平成22年8月22日(日)、高知市文化プラザ「かるぼーと」において、第8回日本医療マネジメント学会高知県支部学術大会が開催されました。この学術大会は、クリティカルパスを中心に発足した日本医療マネジメント学会の支部会として開催されています。発表された内容は①クリティカルパス②医療安全③患者サービス④医療連携⑤チーム医療⑥看護業務⑦リハビリ⑧感染・スキンケアなど幅広いテーマがあり、県内の医療機関で働く様々な職種が参加・発表することのできる貴重な大会となっています。35演題のなか、当院からも「病院全体で取り組む5S活動」(医療安全)と「長期入院患者のFIMを用いた食事自立度に関連する因子」(リハビリ)の2演題を発表することができました。

特別講演として、尾崎正直高知県知事から『高知の医療の充実に向けて～高知県の地域医療再生への取り組み～』、国立病院機構長崎医療センター 木村博典先生から『地域の医療の質を向上させるためにITをどう使うか～長崎あじさいネットの取り組みについて～』というテーマでそれぞれご講演いただきました。興味深い内容で多くの質疑応答があり予定の時間では物足りない感じでした。

私は「感染・スキンケア」に関する4演題の座長を担当させていただきました。肺合併症ゼロを目指した取り組み、新型インフルエンザへの対応、MRSAスクリーニング検査実施状況、褥瘡対策チームの活動についてなど、各施設で工夫された取り組みが発表されました。感染対策は施設の規模や状況、対象者の特徴によって対応を考える必要があります。他施設の取り組みを知ることによって自施設の対策を振り返る機会ともなりました。多くの情報を得ることで広い視野をもち今後の感染管理活動につなげていきたいと思えます。

地域の病院さんで  
医療安全管理研究を行いました

— 永島会 永井病院さんにて —



医療安全管理係長 森山 万智

去る9月29日、高知市春野町に所在する、永島会・永井病院さんにお招きいただき、医療安全管理研修「医療安全における5S活動とは」をテーマに約1時間を使って講演をさせていただきました。夕方の慌ただしい時間でありながらも、沢山の職員の皆様が参加して下さいました。内容としては、『5Sとは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」を徹底することであり、5Sを実践するということは「当

たり前のことを当たり前に行うことができるよう組織活動として展開する」ことである。その目的は、組織体における「モノ」や「情報」および「人」を対象に、全員参加で展開することによって、業務の効率向上、ミスや事故防止、スペースの有効活用などを実現するための業務の基盤整備である。5S実践活動を展開することにより、副次的に管理監督者のマネジメント力向上や組織の活性化が期待できる』といった

5 S活動のとらえ方について、また、当院で展開した事例紹介を交えて永井病院さんでの取り組みのヒントになるようにと考えながら、お話をさせていただきました。医療安全管理担当者の役割を専任として担っている私にとって、今回の講演は地域の病院の職員さんとともに、医療安全に関する知識や工夫を共有し、取り組むきっかけ作りの機会を得ることができ、大変有意義なことであったと認識しております。また、自身の医療安全管理担当者としての成長においても、今回お招きいただいた永井病院さんには大変感謝しており、この場を借りてお礼申し上げます。今後、地域の病院さんと、専門性を持った知識や情報の共有をする機会をますます



す増やし、相互に医療安全対策の推進を目指すことを課題として考えています。

## 地域医療連携室

### 第2回NH①高知病院 地域医療連携連絡会をおえて



地域医療連携室長 呼吸器外科医長 日野 弘之

去る7月31日(土)、第2回目となるNH①高知病院地域医療連携連絡会を開催いたしました。本会は日頃よりお世話になっております地域医療機関の皆様方との交流を目的に、昨年度より年1回開催いたしております。本年も地域医療機関より39名のご参加をいただき、また職員も75名が参加し、計114名の出席で盛大に執り行うことができました。

本年も昨年同様2部構成とし、①地域医療連絡会と②意見交換会としました。①地域医療連絡会では当院の医師紹介と題し、各診療科ごとに趣向をこらしたパワーポイントを作成し、個性的なプレゼンテーションができたと思います。また、企画課頼本専門職が「診療報酬改定にかかる地域医療連携加算について」とのテーマで説明会を行いました。その後の質疑応答ではご参加いただいた先生方から貴重なご意見をいただくことができ、有意義な会となりました。

②意見交換会では高知市、吾川郡、高岡郡医師会会長よりご挨拶をいただき、和やかな雰囲気のもと

交流会を行うことができました。当院職員にとっても地域医療機関の皆様方と、「顔が見える」連携を築く上で、大変良い機会となったのではないのでしょうか。

当院は、「地域に親しまれ、信頼される医療機関」をめざし職員一同努力しております。

今後とも宜しく願い申し上げます。



平成22年度

## 中国四国ブロック内治験研修会に参加して

臨床検査科 細菌主任  
細川 慶司開催場所：広島西医療センター大講堂  
日 時：平成22年9月17日(金)～18日(土)

中国四国ブロック内治験研修会が平成22年9月17日(金)～18日(土)広島西医療センター大講堂で開催され、参加人数は39名で、高知病院からは看護師1名、診療放射線技師1名、臨床検査技師1名の計3名が参加しました。研修は中国四国ブロック事務所医療課、後藤医療課長と広島西医療センターの田中院長の挨拶から始まり、6講演、グループ討議、グループ毎の討議内容発表、全体討論・質疑応答というものでした。

演題は「臨床研究(治験)推進するために一機構本部の役割―」、「治験管理システム・Q&Aをもとに」、治験の総論(治験事務局業務とは)、治験の総論(CRC業務とは)IRB委員長の立場から、「臨床試験を実施するために必要なこと!」など総合的な内容でした。

討議題目(グループカフェ)は1. 同意説明や被験者対応の工夫(苦労)、2. 治験業務の教育、業務の円滑な引継ぎは……、3. 治験が病院にもたらすメリットは? 4. 治験業務を効率的に行うのは? 適切な業務分担とは? 5. 臨床研究(治験以外の業務)への関わり方、6. 治験管理システム・研究費等の取扱(事務の方)など治験業務で常に遭遇する内容でした。

どれも私にとっては少々ハードルの高い内容でしたが、その中でも面白いと感じたのは、グループ討議でした。グループ討議は最初、個人が決まったグ

ループに割当てられていますが、その後は自分が好きな討議題目に参加し意見を述べ、討議終了後はアドバイザーが発表するという形式で行われました。私が討議した内容は、3. 治験が病院にもたらすメリットは?という題目でした。討議の内容としては、①治験収益により、物(医療機器)が充実し、ハード面での病院機能のレベルアップに繋がる。②研修会への参加で知識の向上、患者さんと丁寧に接することで接遇の上達、あるいはメーカーより海外の情報が得られる。③治験(最新医療が受けられる)被験者から病院の宣伝がされ、病院名が認知される。などいろんな意見がありました。この討議をする過程が他部署との意見交換となり、皆様方の治験を円滑に実施するためのご苦労が理解出来ました。また、個人的には治験を全体的に把握している方が少ない様にも思いましたが、治験が問題無く行われている現状がありCRCが治験遂行の潤滑油として大いに手腕を発揮して、チーム医療を成り立たせていると感じました。この研修会に参加して他部署との協力がやはり重要であると再確認しました。

私が現在実施している検体処理は、治験業務のほんの一部ではありますが、円滑に治験が遂行される様に協力体制を重要視し、頑張っていこうと思いますので、関係者の皆様今後ともよろしくお願いいたします。最後に、研修会に参加されたみなさんお疲れ様でした。

## 新医師紹介



泌尿器科 久野 貴平

7月1日より当院で勤務しております久野貴平(くのかひら)です。

出身は大阪府摂津市です。高知医科大学を卒業後、初期研

修を高知県立幡多けんみん病院で行い、高知大学医学部泌尿器科学教室に入局しました。必修化された医師臨床研修制度の最初の学年になります。高知大学で4年間勤務し、7月より当院に異動となりました。高知県には学生時代を含め13年間暮らしていますが、今まで朝倉地区にはあまり縁がなく、全く初めての場所に転勤した気分です。患者さんを始め、雰囲気随分と違いますが、早く慣れ、スムーズに対応できるようになりたいと思います。また、大学病院では経験できない疾患も多く、この機会に少しでも多くのものを学べればと思っています。

泌尿器科医としてまだまだ未熟であり、皆様にご迷惑をかけるかもしれませんが、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

# ふれあい看護体験



副看護師長 片岡 千砂

看護協会主催で毎年行われている「ふれあい看護体験」とは、看護に興味のある高校生が、病院を訪問して、看護師の仕事を経験学習するものです。

7月27日、県下の高校生29名が、夏休みの1日を利用してふれあい看護体験に参加してくれました。

朝、集合した学生たちは、病院の概要や看護職について、看護部長からの説明を少し緊張した面持ちで聞いていました。その後、原感染管理認定看護師の講義を受け、みんなで手洗いの体験をしました。

病棟での体験では、担当看護師から現場での看護師の仕事の説明してもらい、「責任のある、大変な仕事だけどやりがいがある」と感じてくれていました。洗髪や手浴など、看護師とともに患者さんのケアをさせてもらった学生は、患者さんから「ありがとう」の一言に喜んでいま

した。

午後からは、医事、薬剤科、放射線科、栄養管理室、リハビリ、検査室を見学させていただきました。お忙しい中、学生たちに説明をしてくださった部署もあり、ありがとうございました。

その後、お茶とお菓子を前に、グループワークを行いました。初対面のこともあり、積極的に発言する学生はいませんでした。現場での看護体験を通して、「人のために働くのはすごい」「看護師になりたい気持ちをもっと強くなった」等の感想が聞けました。

最後に、新しくなった看護学校も見学をして、1日を終わりました。

青春真っ只中、瞳を輝かせて将来に沢山の夢をもった学生たちに関わり、私も負けないように頑張ろうと、多くのパワーをもらった一日でした。



# 夏の行事



保育士 山田美由紀

## 8月9日(月) 県庁屋上 納涼花火大会観覧

県からの招待を頂いて、納涼花火大会観覧へ4年ぶりの参加が叶いました。

当日は、昼間から降水確率が微妙で随分と気をもませる雲行きでしたが、無事予定通り花火大会が行われることになりました。18時、少し早めに病院を出発した当院の一行は県庁まで混雑することなく到着。そして、屋上まで上がり少しずつ日が暮れていく中で花火の始まりを楽しみに待ちました。意外と屋上は蒸し暑さもなくてゆっくりとくつろいでいると尾崎県知事さんが来てくださいました。知事さんは「楽

しんでいって下さいね」と明るく声を掛けてくれました。男前の知事さんが来てくれたら「高知病院から来ました」と言うつもりだったHさんでしたが、「…」残念！ 時間切れ！ 熱視線を送っただけで知事さんは隣の招待者さんの方へ行ってしまいました。19:30ジャスト。始まりの一発があがりました。小さな火の玉がまっすぐ夜空にあがりお腹にズン！と響く音と一緒にみんなの顔も身体もビクッ！大きな花火の輪が広がり「ワーはじまった！」次々と眼の前にあがる花火を存分に楽しんで帰ってきました。



## 8月10日(火)~11日(水) よさこい踊りの慰問

今年のひときわ暑い夏が、よさこいの舞であでやかな彩りに染まりました。年々、観る者を楽しませる衣装や軽やかな動きは、躍動感に満ちていて思わず引き込まれそうになります。

今年は『ろうきん』100名のチームと『エンヤ』70名のチームが二日に亘って来てくれました。利用者にとってもテレビで観るだけでなく生でその雰囲気を感じ出来ることは何よりの喜びです。病棟では

梅雨が明ける頃ともなると、早々と鳴子片手に「よっちょれがくる！」と、楽しみに待つ利用者もおり、おかげさまで毎年のよさこい祭りがより身近なものとなっています。あいにく祭り本番は激しい雨の合間を縫っての幕開けとなりましたが、そんな心配も暑さも吹き飛ばす魅力溢れる踊り子さんの笑顔に、今年も「よっちょれがきた！」と、みんな大満足でした。『ろうきん』（労働金庫）のいつも当院に出



入りしてくれている職員さんはキャラクターのロッキー君の着ぐるみの中に入っているとのことでした。

本当に…「暑いけどがんばってよ！」と声援を送りました。



暑いけど  
がんばって  
よ!

## 8月27日(金) つくし花火大会

いろいろな思い出を胸に8月も終わろうとしています。まだまだ暑い日は続きますがこの夏の締めくくりとしてつくし花火大会は、計画されています。ご家族の参加もほつほつあって、うた遊びやゲーム、絵本シアターで夕刻のひとときを賑やかに過ごしました。その内、療育訓練室の外はすっかり真っ暗になっていて、パンパンと打ち上げ花火やシュルシュルと吹き上げ花火が始まりました。この日の花火師はハッピー姿の勇ましい男性看護師と児童指導員。どんどん続いてナイヤガラ仕掛けの始まり始まり。

まばゆい光と音と共に花火の匂いがみんなの方にもどんどん伝わってきて、それを皆身体中で感じる事が出来ました。みんなの期待に応えるようにキラキラと輝いてはパッと消える花火が本当に綺麗で、最後の手持ちの小さな花火はみんなの笑顔を映し出していました。今年も高知県の西から東から盛大な花火大会のニュースもありましたが、つくし花火大会には叶いますまい、みんなの心もポツポツと明るくなった夏の宵でした。



# オープン スクール



2年生  
井口 恵理



2年生  
千村さおり

7月24日・8月22日の二日間、オープンスクールが開催され、多くの高校生や社会人、保護者の方々が学校見学に参加して下さいました。（1回目59名、2回目61名）



オープンスクールでは、学校の概要や学校行事、学生生活について教員や学生から紹介をさせていただき、実際に高知病院に移動しての病院見学も行われました。

模擬授業として今回は体内の音や血圧について講義を受けた後、皆と一緒に血圧測定や体内の音の聴診をお互いに実施したりもしました。



昼食時には看護学生も参加させていただき、一緒にお昼ご飯を食べながら、和やかな雰囲気の中で、実習や学校生活などについて気楽に質問していただける場も設けられました。

午後からも盛りだくさんの内容で、実際に授業で使用している教材を用いて、赤ちゃんの沐浴や手洗い、身体の音、妊婦体験、高齢者体験、人間の自然な動き、血圧測定が行われました。

一日だけではありますが、参加していただいた方々には、当校について、概要や学校生活のほか、参加してみなければ分からない学校の雰囲気など、色々なことを感じていただけたのではないかと思います。

# 宿泊研修



1年生  
齊藤 七彩



1年生  
溝渕 千真



研修で自分が学んだことは、自分のことだけでなく相手の動きもよく見て、今何をすべきなのかの判断を的確にすることなのだと思います。これから看護を学ぶ上で、なくてはならないスキルだと考えました。みんなで協力して作ったカレーもすごく美味しかったです。

また2日目のミニ体育大会では、4つのチームに分かれて行いました。各チームが協力して一つの競技に精いっぱい取り組みました。どの競技にも最初から全力で臨んでいたのも、ミニ体育大会が終わるころにはリフレッシュでき、また学年間の絆が深まりました。

この宿泊研修を通して、普段学べない事をたくさん知識として取り入れることができ、参加して本当に良かったです。ただのイベントと考えず、これから看護を勉強していく中で、今回の経験を生かせるように仲間とともに日々精進していきたいと思っています。



# 外来診療担当医表 (平成22年10月1日現在)

受付時間 8:30 ~ 11:00 整形外科・火曜日は8:30 ~ 10:30 です。 休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日 ~ 1月3日  
耳鼻咽喉科・月曜日、水曜日は8:30 ~ 10:00 です。



独立行政法人  
国立病院機構

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号  
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385  
http://www.hosp.go.jp/~kochihp

## 高知病院



高知病院の  
シンボルマーク

診療科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内科	午前	1 診	⑫ 板垣	稲山	篠原	町田・阿部	畠山・稲山
		特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来					
神経内科			⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	午前	1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
		2 診	⑥		町田 久典		
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器科	午前		⑨ 井上 修志	友兼 毅	板垣 達三	井上 修志	友兼 毅
循環器科	午前		⑦ 山崎 隆志	名田 晃	名田 晃	山崎 隆志	名田 晃
	午後	専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1 診	① 小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	高橋 芳夫
		2 診	② 武市 知己	山遠 剛	山遠 剛	大石 尚文	山遠 剛
		3 診	③ 大石 尚文				小倉由紀子
	午後	専門外来		アレルギー	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ
予防接種			14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)
外科	午前	1 診	⑤ 安藤 勤	長堀 順二	佐藤 宏彦	安藤 勤	長堀 順二
		2 診	⑥ 大塚 敏広	小笠原 卓		大塚 敏広	小笠原 卓
	午後	専門外来		安藤 勤 乳腺外来		佐藤 宏彦 ヘルニア・胃腸専門外来	日野 弘之 乳腺外来
整形外科	午前	1 診	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 享	篠原 一仁	久保 貴博
		2 診	②				
脳神経外科	午前		⑧ 新野 清人	新野 清人			新野 清人
	午後	専門外来		神経超音波			神経超音波
呼吸器外科	午前		⑦	日野 弘之		吉田 光輝	
小児外科	午前		⑤	佐藤 宏彦			
皮膚科	午前		⑬ 永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝	永野 弓枝
泌尿器科	午前		⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前		⑳ 米谷 直人	福家 義雄	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子
	午後						
婦人科	午前		㉑ 福家 義雄	小林 文子 (予約のみ)	小林 文子	米谷 直人 (予約のみ)	米谷 直人
				米谷 直人			
眼科	午前		㉒ 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前		⑯ 関田 拓馬	関田 拓馬	関田 拓馬	関田 拓馬	関田 拓馬
	午後			耳鼻咽喉科は当分の間、休診となります。			
リハビリテーション科							
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	松岡 葵	塩田 博文	小松 幸久

※ 内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。